

## 非常時対応規定

### 閉鎖の目的

閉鎖の目的は学生、教職員、スタッフと訪問客を一番近くにある安全な施設に保護し、危険からさらされることを最小限にするため。閉鎖が実施された時、建物や教室の中にいる方々を怪我の危険から守る役割を果たす。以下の事態は閉鎖が実施される場合がある例

- 殺人犯／乱射事件
- 警察が近くのエリアで暴力犯を捜査中
- 暴力犯罪がキャンパスの近くで起き、容疑者がキャンパス内に危険を及ぼす可能性があるとき
- キャンパス内で武器が使われたと伝えられたとき
- スタッフや学校所有地にいかなる深刻な脅威が迫り、建物やキャンパスの閉鎖が必要になった時

### 避難の目的

避難の目的は学生、教職員、スタッフと訪問客をキャンパス内で確認された危険をできるだけ遠くに移動すること。避難が順序よく実施されたとき、キャンパス内にいる施設からすべての人を安全に退避させることができる。確認された脅威がすぐ近くでない場合、そこから安全に退避させることが状況にあった対応である。

### 閉鎖／キャンパス避難の必要条件

閉鎖／キャンパス避難を成功させるためには、全ての教務員の協力が必要です。実施が成功したとき、脅威によって引き起こされる怪我の危険や生命が失われる状況を緩和することができる。したがって、全ての教務員は実施計画の手順やそれぞれの役割を知る必要がある。実施計画を地方警察や第一発見者が安全のために知らせる必要がある。閉鎖と避難の実施は事前に練習する必要がある。

### 語彙の解釈

殺人犯活動中一殺人事件がいかなる状況で起き、その容疑者／殺人犯が建物の中に入ろうとする、すでに中に入ったあるいは中にいる人を殺害しようとするときのことを指す。殺害をするは以下の物体を用いた場合を指し、これらに限らない。小火器、爆弾、爆発物、ナイフ、剣、刀、火、鈍器、爆発ガス／液体、電気デバイスあるいは他の物体で殺害をしようとするとき。このような状況が起きたときに、警察のただちな対応が必要で、殺人犯を捕まえるかはずませる必要がある。

閉鎖—閉鎖はキャンパス内の人の生命を及ぼす危険を最小限にするための対策です。学生、教職員、スタッフと訪問客に危険が起きたときに実施される。閉鎖は建物の出口をロックするか

物体で塞ぐことを含め、外から建物の中に入れないようにする。中にいる方々は危険からさらされることを防ぐことができ、安全にすることができる。

修正閉鎖—修正閉鎖は脅威が建物の外にあると知って、閉鎖と同じ手順をとる対策のことをさす。修正閉鎖では建物の中の人々は歩きまわり、日常生活を送ることができ、脅威がなくなったと分かった以外、誰も中に侵入するあるいは離れることができない。標的閉鎖とも知られる。比較的危険が少ないので、警察がエリア付近で潜在する脅威をとめることができる。

避難—避難は閉鎖手順の中で、建物内の暴力が犠牲者が発生しうるときにどれだけ脅威の近くにいてかによってとても重要な手順のひとつです。避難は閉鎖が安全でないかつ安全に避難できる時だけ実施される。ほとんどの避難はセキュリティーや警察に指示されたときに行われる。避難する方々は危険な場所から反対方向に退き、安全な場所に移動し、完全にキャンパスから離れる必要がある。

### 閉鎖の手順

- ドアの外を注意してチェックした後、脅威ではない人たちを室内に集める。
- ドアを閉め、バリケードをするか、鍵をかける
- ドアを隠し、外から中が確認できないようにする。
- 全ての窓を中からカバーする
- 地面から低い姿勢をとり、ドア側の壁を背にし、音を出さないこと。
- 携帯をサイレントにし、少なくとも一人が9 1 1に電話をかけ、指示されることができる状態にする。
- 室内にいる頼れそうな人をリーダーにし、ほかを助ける。
- 閉鎖が終わり、安全に退避できると言われたときだけ部屋を離れる。
- もし警察が中に突入するとなった時、顔を地面に伏せ、横になり、手を体の両側に見えるように置く。（警察が犯罪者を捜査するので）
- 解放させる前に警察から質問させることを心に置いて下さい。
- もし閉鎖中に火災報知機が鳴った時に、火災だと分かった時以外に決して建物を離れないで下さい。（人を安全な場所から騙し出すおとりの時があるので）

### 避難の手順

- 避難は緊急事態が起き、安全に避難できる時に実施されるべき。（もし閉鎖が安全でないとき）
- 建物から避難する方々はただちに大学キャンパスからできるだけ遠く離れ、9 1 1を掛け緊急事態を知られる。
- 大学責任者やセキュリティーから指示があった以外火災があるポイントを通過し、避難しないこと。